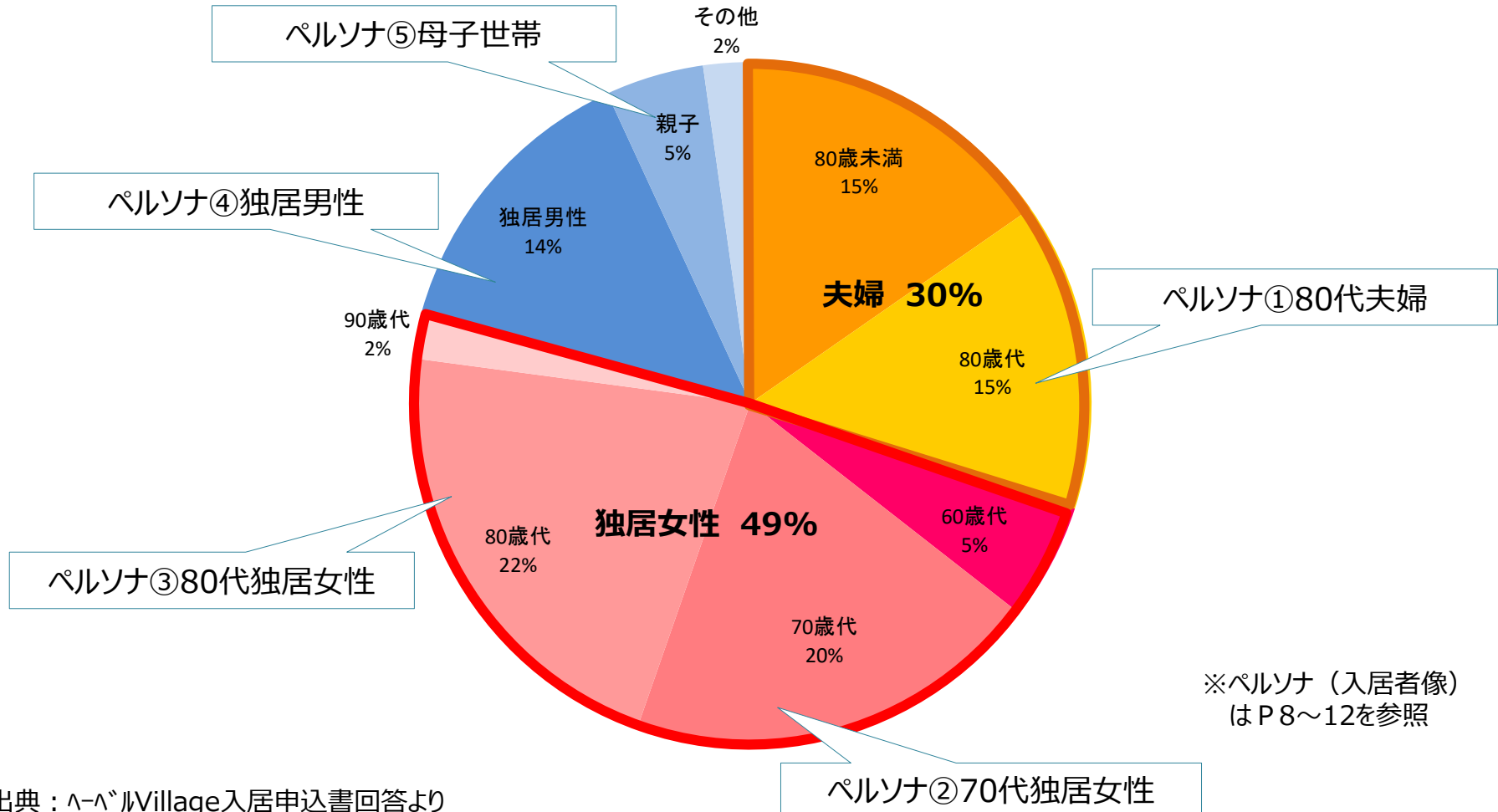


ハーベルVillage入居者分析 (2019年3月末時点)

- 期間：2005年4月～2019年3月31日
- 対象ハーベルVillage：33棟（サ高住除く）
- 出典：入居申込書
- N = 450（退去者分を含む）

入居者の属性

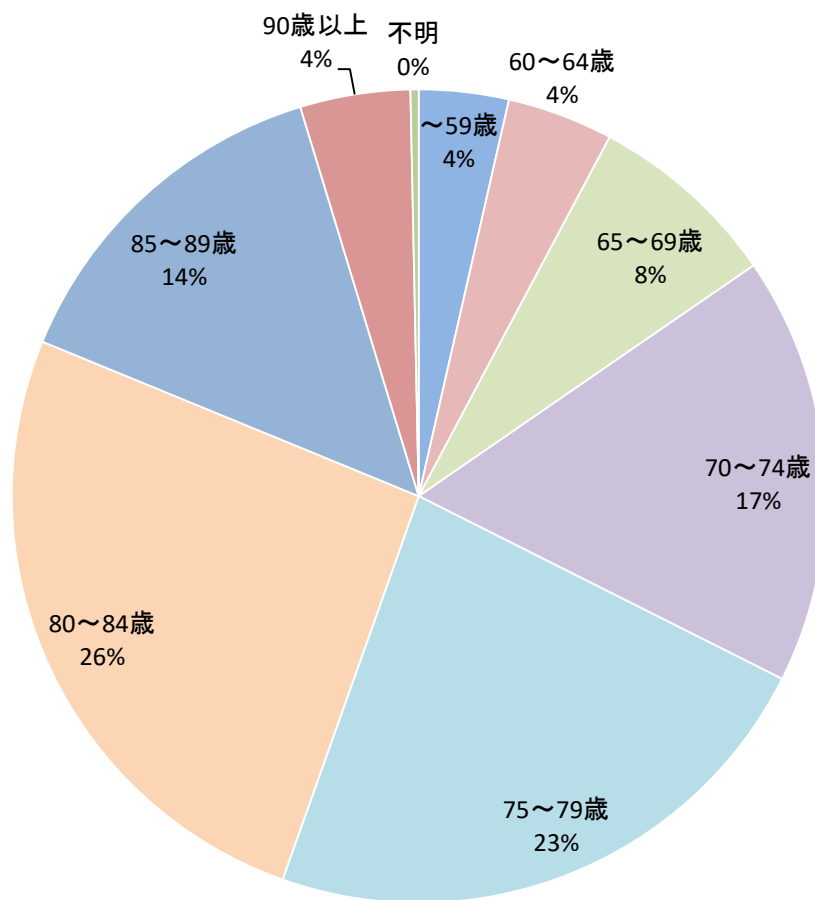
夫婦のお住まいが3割、独居女性が約半数を占める



出典：Λ-Λ`ルVillage入居申込書回答より
母数：入居申込書総数 n = 450

入居者の年齢

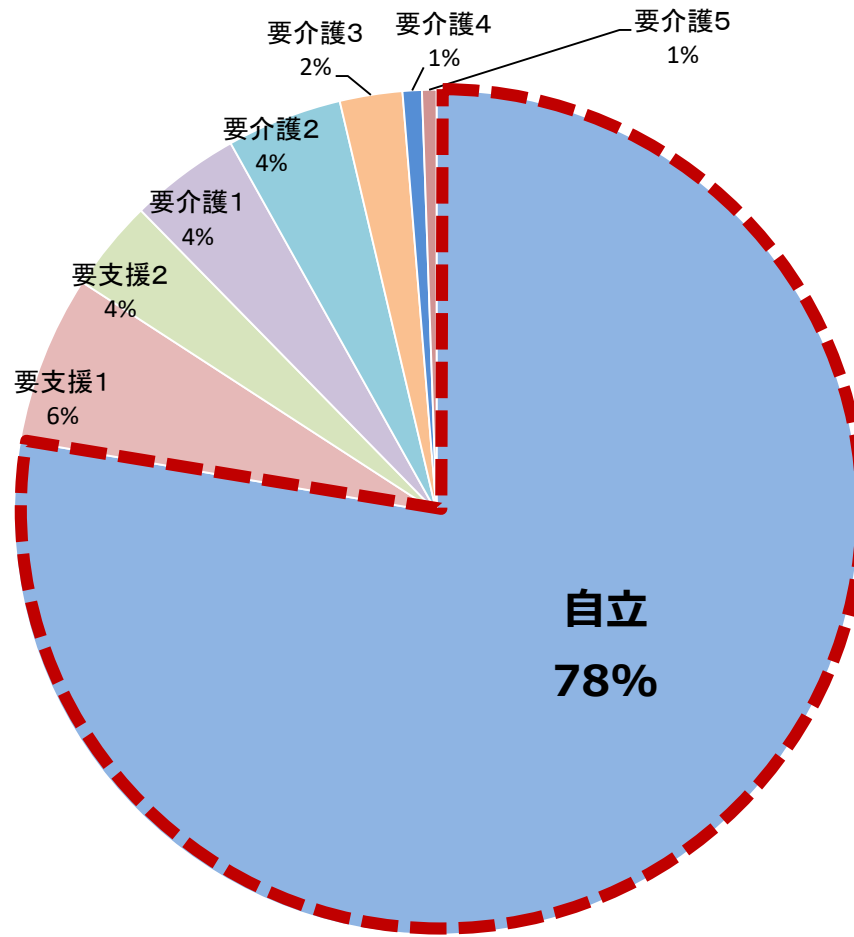
入居者の平均年齢は77歳（※同居人含む）



出典：Λ-Λ`ルVillage入居申込書回答より
母数：入居申込書 年齢欄の有効回答数 n = 617（同居人167人含む）

入居者の介護度

自立が約8割を占める (※同居人含む)

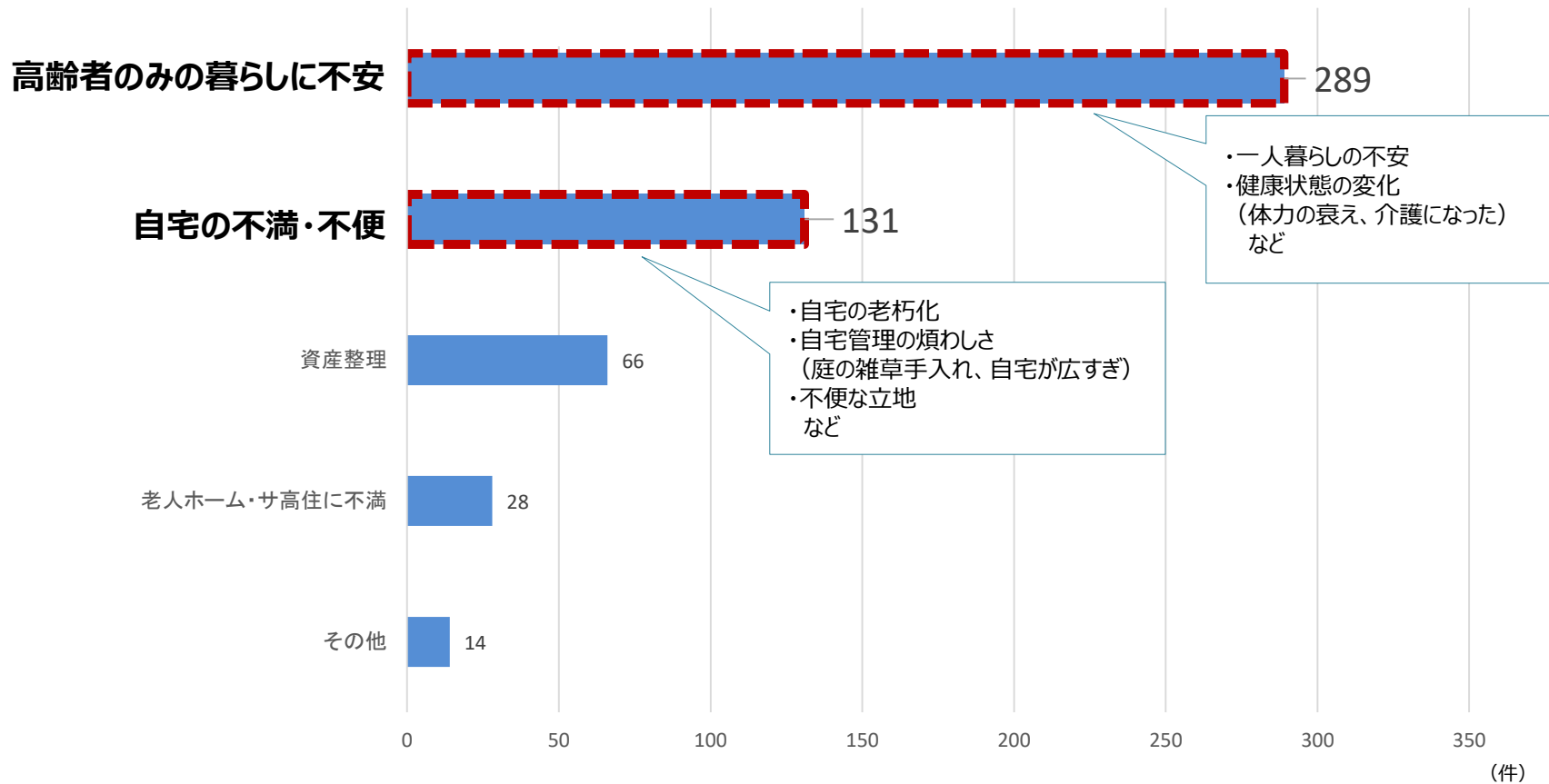


出典：A-Val Village入居申込書回答より

母数：入居申込書 介護認定欄の有効回答数 n = 617 (同居人167人含む)

入居理由

入居理由の大半は「高齢者のみの暮らしに不安」・「自宅の不満・不便」 (※複数回答含む)

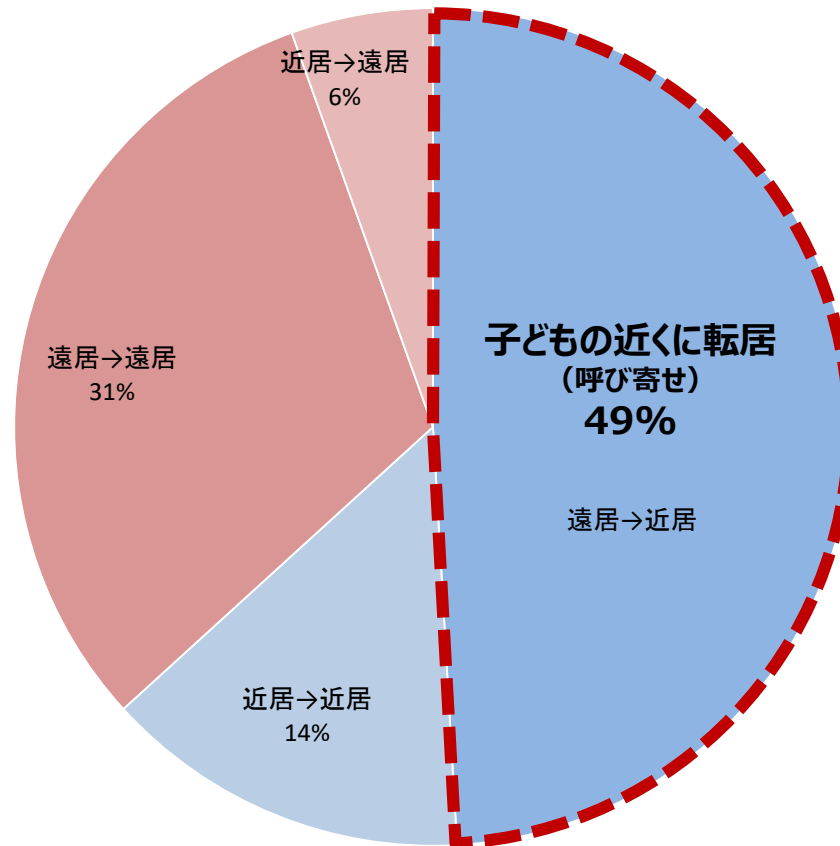


出典：ハートフルVillage入居申込書回答より

母数：入居申込書 転居される理由覧の有効回答数 n = 528

子の住まいと親の住まいの距離

子どもの近くに転居する方（呼び寄せ）が約5割



出典：Λ-Λ Village入居申込書回答より

母数：入居申込書 住所欄の有効回答数（親の住所地と子（連帯保証人/身元引受人）の住所地比較） n = 450

※ 遠居→近居：「親の元住所地」より「住替え先のΛ-Λ Villageの住所地」の方が「子の住所地」に近くなる

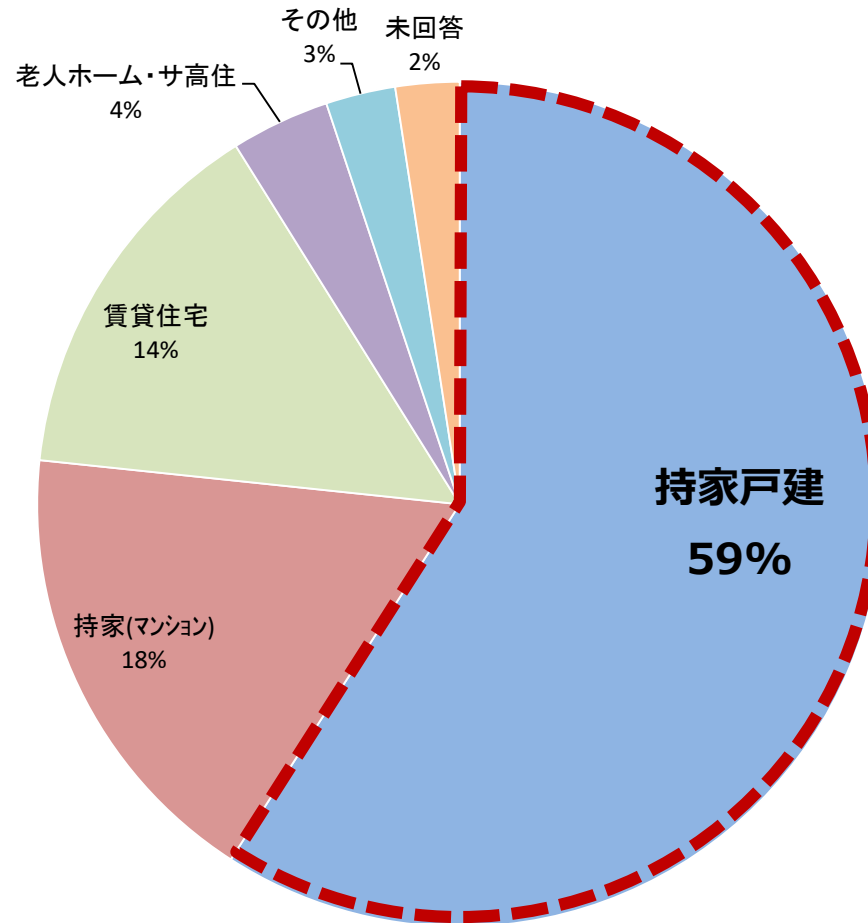
※ 近居→近居：「親の元住所地」、「住替え先のΛ-Λ Villageの住所地」ともに「子の住所地」に近い

※ 遠居→遠居：「親の元住所地」、「住替え先のΛ-Λ Villageの住所地」ともに「子の住所地」に遠い

※ 近居→遠居：「親の元住所地」より「住替え先のΛ-Λ Villageの住所地」の方が「子の住所地」に遠くなる

ハーベルVillage入居前の住まい

入居者の約6割が、持家戸建に居住



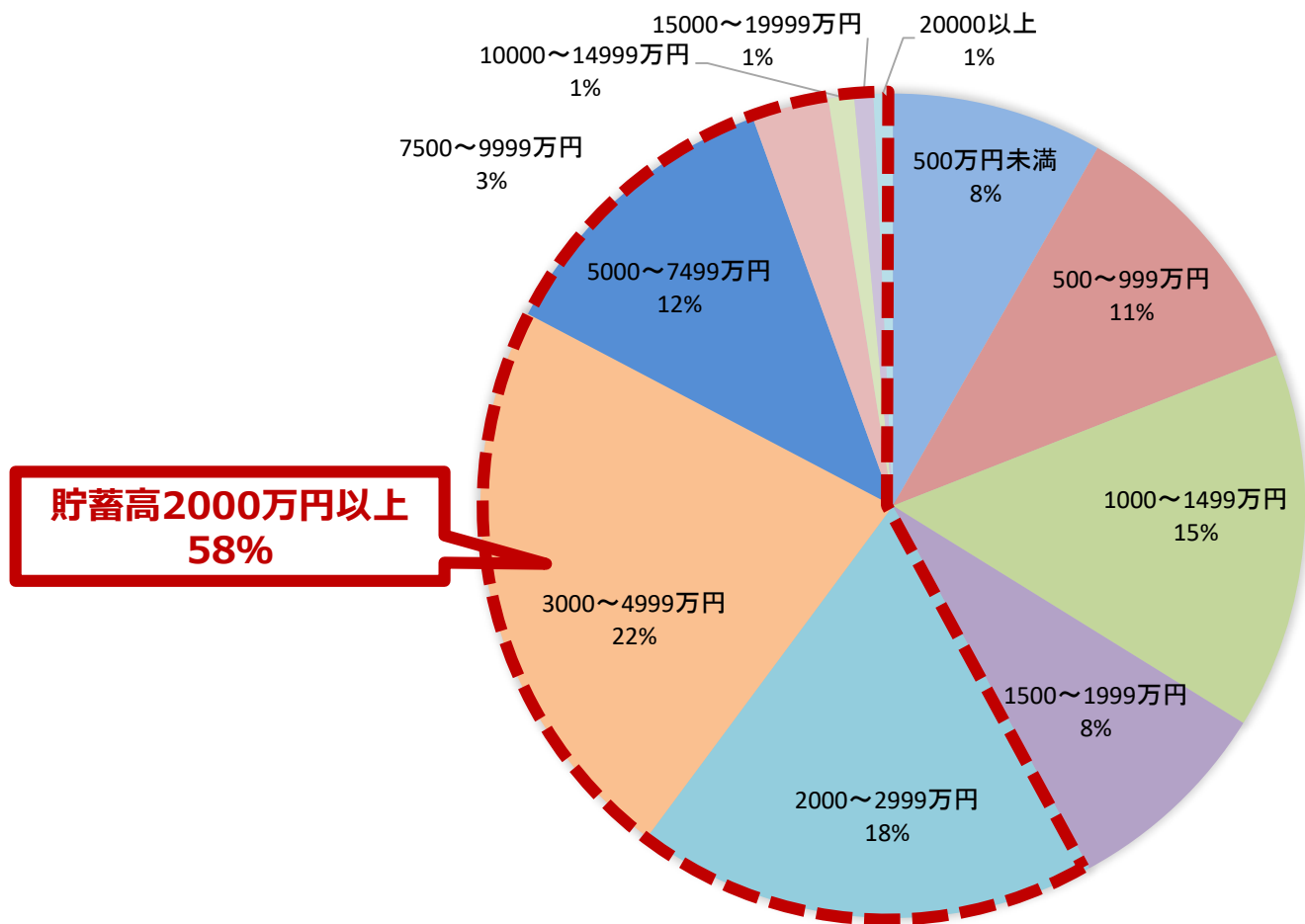
出典：ハーベルVillage入居申込書回答より
母数：入居申込書総数 n = 450

入居者の保有資産（預貯金）

入居者で2,000万円以上の貯蓄のある方の割合は全国平均の1.7倍

<Village入居者の貯蓄高は2000万円以上が58%。全国の65歳以上で2000万円以上の貯蓄を持つ割合は約34%※>

※出典：総務省統計局 資産の種類・資産額階級、世帯属性別世帯分布 全国平均



出典：ハベルヴィレッジ入居申込み書回答より

母数：入居申込書総数 n = 450

ペルソナ(入居者像)① 80代夫婦「配偶者を気遣いながら、いつまでも2人で」

- 片方が要介護1~2程度になり、手助けが必要
- 2人だから、遠くへの転居ができた
- 介護施設だと2人が離れ離れになるのでいや。2人で今までどおりの生活ができることが幸せだと思う



【仮】長谷川 靖男(83歳)・和子(82歳)

【これまでの歩み】

- ・夫は地方銀行勤務、妻は専業主婦だった。
- ・夫の退職後は2人で犬の散歩を兼ねてウォーキングすることが日課で、知り合いも多かったが、夫が79歳の時に1回目、81歳の時に2回目の脳梗塞をおこし、要介護2になった。

【住替えの動機】

- ・滋賀県に住んでいたが、夫が脳梗塞で軽いまひが残り、要介護2になった。
- ・妻が介助していたが、今のうちに子供が呼び寄せたいと資料を送ってきたので転居を決意した。
- ・先のことは考えていないが、今回の転居は大変だったので繰り返したくない。

【家族との関わり】

- ・娘が2人いて、結婚後東京と埼玉に住んでいる。
- ・長女は看護師、次女は保育士として働いている。
- ・看護師の娘は隣町に住んでいるが、忙しく月に2回くらい顔を出す程度。
- ・連絡は2人ともまめにくれるので、気持ち的には頼りにしているが、娘2人とも仕事があるので、夫婦のことは夫婦で解決したい。
- ・夫は介助が必要な部分もあるが、手続きなどは得意なので担当している。妻は買い物や家事が担当している。

【趣味・楽しみ】

- ・夫が体調を崩す前は車でよく出かけた。今は夫の歩行が危ういので、散歩も行けない。
- ・妻は夫がデイサービスに行っている間の時間に何か趣味ができるといいなと思っている。
- ・2人で行った場所の思い出の写真などを見ながらよく話している。
- ・車いすを妻が押して、たまに近所の公園まで行くこともある。

【願い・悩み】

- ・施設に入ると夫婦が離れ離れになるし、家事も人任せにすると弱ってしまうので、できるだけ2人で暮らし続けたいと思っている。
- ・妻も最近体調を崩しがちで、もし寝込んでしまうと共倒れになってしまうので、緊張感を持って生活している。

【経済状況】

収入
厚生年金+企業年金
支出
家賃・医療介護費・食費
資産
元の住まいは売却

ペルソナ(入居者像)② 70代独居女性「色々な人とほどよい距離で、今を充実に」

- 子どもとは、ほどよい距離をおきたい。まだ親の介護をすることもある
- 独り暮らしは淋しくなることもあるが、前から続けている好きなことは続けたい。新しいことも始めてみたい
- たまに人が来てお話したり、料理を振舞ったりするのは嬉しいけれど、親のお世話をするのはそろそろ卒業したい



【仮】相田京子(72歳)

【これまでの歩み】

- ・結婚を機に退職、それからは専業主婦だった。
- ・練馬区の一戸建てに住んでいた。
- ・夫と夫婦仲は良かったが、2年前に亡くなった。

【住替えの動機】

- ・夫と死別し、しばらく気落ちして何もできなかった。娘が心配して同居の検討もしたが、距離を取れるヘーベルヴィレッジがいいと思って入居した。
- ・人に助けってもらわなければならなくなったら、老人ホームに入れればいいと思っている。

【家族との関わり】

- ・娘と息子が東京に住んでいる。
- ・娘は隣駅に住んでいて、子どものお受験など大変そう。LINEはするが、手伝わされるのは嫌なのでそこそこにしている。
- ・息子は独身で仕事が忙しいようだ。
- ・夫は2年前に、がんで亡くなった。やっと立ち直ってきて、やっと写真の整理などを始めたところ。
- ・義母は特別養護老人ホームに入所中で、夫の兄弟が面倒をみているがたまに手伝う。

【趣味・楽しみ】

- ・夫と海外旅行をするのが好きだった。地元に行ったときは、語学サークルに入っていて留学生の世話などをしていた。
- ・住替え後も地元のお友達と新宿でご飯を食べたり、美術展に行くのが楽しみ。

【願い・悩み】

- ・新しい生活に慣れてきたところで、特段悩みというものはない。
- ・少し疲れやすい日があったり、痛みがあって歩くのが辛いときなど、こうやって歳を取るのかと思う。
- ・もう少し趣味がほしい。毎日独りだと退屈だし、ボケそう。

【経済状況】

収入

遺族厚生年金、企業年金等あり

支出

家賃・食費・通信費・娯楽費

資産

練馬の一戸建て(空き家)

ペルソナ(入居者像)③ 80代独居女性「自分のことは自分で、今を維持したい」

- 地元にはいたかったけれど、子供に心配をかけるのもいやなので引っ越した。子供がいてくれて心強いが頼りきりはいや
- 自分のことは、できるだけ自分でやりたいが、栄養のバランスが取れている宅配の食事を夕食だけ使い始めた



【仮】山下 みすず(82歳)

【これまでの歩み】

- ・専業主婦だった。
- ・夫は元中学校教諭。脳梗塞で倒れた後はしばらく要介護状態となり8年前に亡くなった。

【住替えの動機】

- ・長野県に住んでいたが、大きな家の手入れや雪おろしなどが負担になってきた。
- ・骨折を機に要介護1となり、心配した娘が呼び寄せた。
- ・娘も高齢になってきて、これからのことは未定。

【家族との関わり】

- ・娘はヘーベルヴィレッジの近所(バスで2駅)に住んでいる。
- ・デイサービス利用の手続きなどは全部やってくれ、頼りにしている。
週に2回は娘夫婦の家で夕食を食べている。
- ・親戚は長野県にいたので、たまに電話で話したり、絵手紙のやりとりをする。だが高齢になると、皆いろいろと大変なので、込み入った話はしない。

【趣味・楽しみ】

- ・元々手仕事が好き。縫い物やかごなどを作るのも好き、今は近くのカルチャーセンターで絵手紙サークルに入っていて、月に1回通っている。
- ・デイサービスのない日は、廊下を30往復して運動をこころがけている。
- ・ヘーベルヴィレッジの茶話会に出席したら、顔見知りが増えて良かった。

【願い・悩み】

- ・先日動悸がするので脈を取ったら高かく、娘にクリニックに連れて行ってもらったが暑さのせいといわれた。
娘に負担をかけるのもいやだし、いざというときが心配なので、施設に入ったほうがいいのかと思う。だが、本当は今のようにマイペースに暮らしたい。人の世話にはなりたくない。

【経済状況】

収入
遺族厚生年金、遺族共済年金等あり
支出
家賃、医療費、食費
資産
長野県の家(空き家)

ペルソナ(入居者像)④ 独居男性「自分のスタイルで、きっちり計画する」

- 年齢に応じて、ペルソナ②や③と重複する部分が多い
- 現役時代と同じくゴルフを楽しんだり、大学に通って勉強するなど、女性に比べて外交的な生活を好んでいる人が多い
- 家事は、外部サービスの利用に積極的。あるいは家族が通ってくれる
- 終活を含め、きちんとこの先について計画をしておきたい気持ちが強い



【仮】森内 一成(76歳)

【これまでの歩み】

- ・商社に勤め、海外赴任も多かった。
- ・退職後は嘱託で70歳まで関連会社で働いていた。
- ・徐々に妻の認知症が始まり、今はグループホームに入居させている。

【住替えの動機】

- ・埼玉県に住んでいたが、妻の認知症が徐々に重症となり、家での生活が難しくなった。
- ・子供と相談し、妻をグループホームに入所させ、家を売って、自分は心機一転でヘーベルヴィレッジに入居した。

【家族との関わり】

- ・息子が3人おり、いずれも結婚して都内に住んでいる。
息子たちは仕事があるので、あまり連絡しない。
息子の妻たちはみな親切でよく電話をくれるが、やはり他人なので頼りたくはない。
- ・会社時代の友人や、弟たちのほうが気楽に連絡できる。

【趣味・楽しみ】

- ・会社員時代は忙しかったので、じっくり勉強する暇もなかった。
- ・退職後はしばらく妻の面倒が大変だったので、今は社会人講座に通って、中東情勢を勉強している。やっと勉強することができて楽しい。
- ・ゴルフも、友人とたまに会う機会になっている。

【願い・悩み】

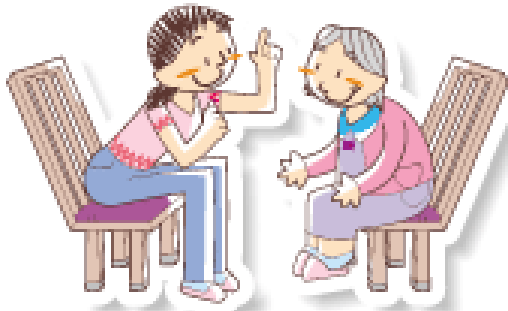
- ・在宅での老々介護は大変だったが、今でも入所した妻のことは心配。
- ・自分がどれだけしっかりできるか、最後まで自分で自分の面倒をみられるか、子供に迷惑をかけないように終活はしておきたい。

【経済状況】

収入
企業年金等あり
支出
家賃・食費・通信費・娯楽費
資産
元の住まいは売却

ペルソナ(入居者像)⑤ 母子世帯「この5年間は母のため、その後は？」

- 母親の生活の質を保つことが娘の第一の願い
- 娘は自分の楽しみもほしいし、母と暮らさなくなった後の自分の生活もいつか考えなければと思っている
- 長く一緒に住んでいなかった母娘が改めて同居することで、お互いに我慢もある



【仮】住田はる(86歳)・玉木るい(63歳) 親子

【これまでの歩み】

- ・父親は3年前死亡。
- ・母親は親族の会社を定年退職後、民生委員など地域活動をしていた。
- ・娘は看護師で、都内の大病院などで勤め、看護学校の講師などもしていた。母親の転倒を機に退職。

【住替えの動機】

- ・千葉県の古い一戸建てに母親だけで住んでいたが、洗濯物を干しているとき庭で転倒して骨折し要介護2になってしまい、元の家では暮らしにくくなった。
- ・娘がいくつか老人ホームを探してくれたが、認知症の方も多く娘が気に入らなかった。そこでへーベルヴィレッジを知り、娘と相談して同居を決めた。

【家族との関わり】

- ・娘の他に息子が二人おり、長男は地方在住、次男は海外赴任中。
- ・看護師の娘をひとり暮らしの時から頼りにしている。
- ・転倒をきっかけに娘と同居することになったが、長く一緒に住んでいなかったのも、改めて同居することでお互いに我慢がある。

【趣味・楽しみ】

- ・母親は、デイサービスに行ってきたお友達と手芸やおしゃべりをすることが楽しみ。お風呂も気持ちがいい。
- ・娘は仕事の合間に、季節ごとに長期登山に行くのが今までの楽しみだった。母親と同居したので、置いていけず、最近は行っていない。

【願い・悩み】

- ・母親はできるだけ長く、認知症にならずにいたいと思っている。
- ・娘も残りわずかな期間をできるだけ支えたいと思っている。
- ・徐々に2人暮らしで、2DKでは息詰まると思うことも増えてきた。
- ・娘には知り合いが少なく、時間をもてあましていようだ。

【経済状況】

収入

遺族厚生年金、企業年金等、
母娘の貯蓄等

支出

家賃、食費、医療介護費

資産

千葉の一戸建て